

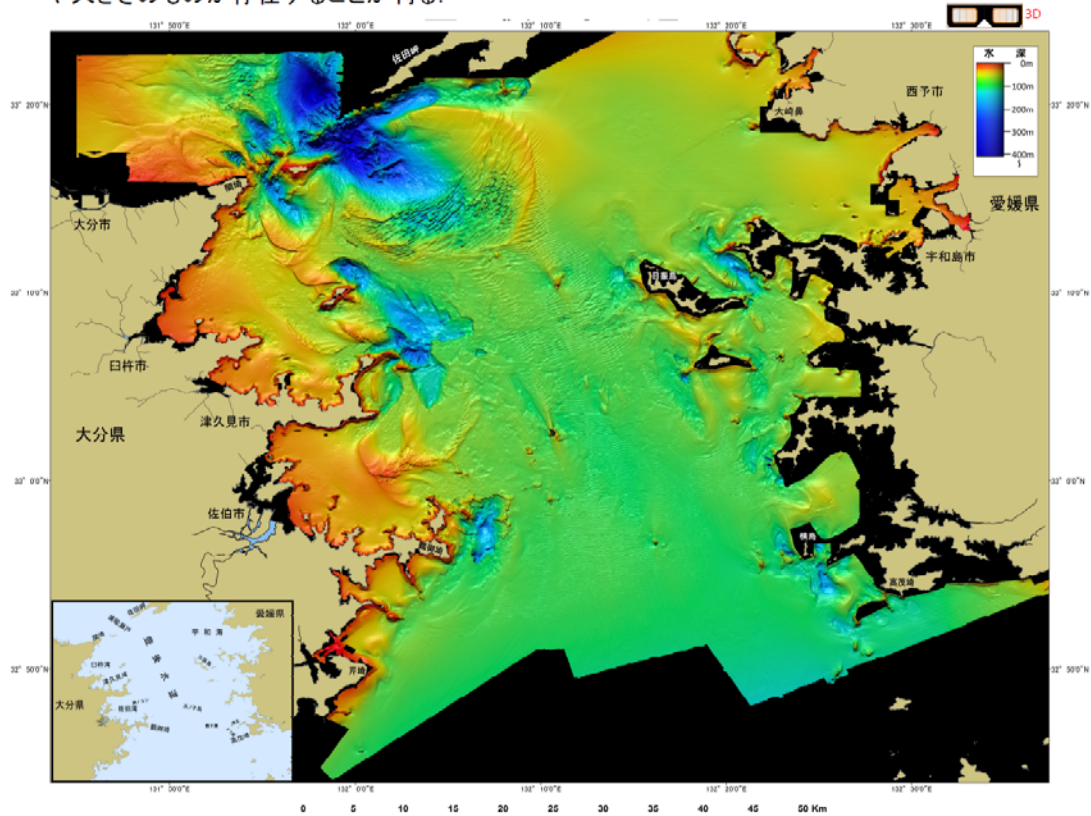
P3 豊後水道におけるマルチビーム測深機で得られた海底地形 ～潮流が織りなす海底の紋様～

森 弘和
海洋調査課

豊後水道は、その中央付近にある水ノ子島周辺等いくつかの険礁を除けば水深も深く、航行する船舶に影響がなかったこともあり、昭和15(1940)年に実施された豊後水道内全域の測量の後は、港域やその付近を除けば、近年まで網羅的な水路測量は行われてこなかった。

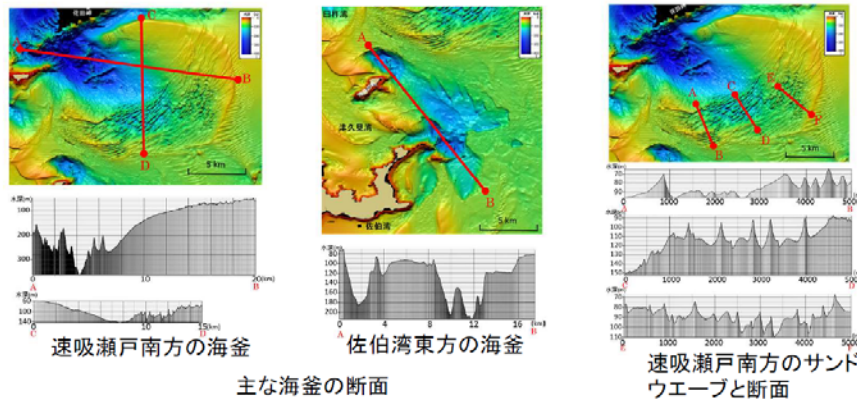
平成17(2005)年度から開始したマルチビーム測深機による一連の調査により、新たな浅所の発見に加え、海図では表現されない小さな凹地等が明確となり、潮流によって形成された地形や岩の分布が明確となった。

水深データから作製した段彩図を一見して目につくのは、潮流によって形成されたサンドウエーブと海釜である。これまでの成果でもその存在は知られていたが、段彩図とすることで様々な形状や大きさのものが存在することが判る。



海釜 : 円形、だ円形又は三日月型をした海底の凹地。潮流による海底浸食に起因するもの、断層陥没によるもの、河谷の埋め残されたものなどがある。

サンドウエーブ : 海底や河床等に見られる大きな砂の波。波高数十cm波長数十m、波長数十mから数百mにわたる大きな砂の波で、流れの方向に直角に配列し、著しい非対象形は示さない。流れの比較的強い所に現れる。



速吸瀬戸南方の海釜

佐伯湾東方の海釜

速吸瀬戸南方のサンドウエーブと断面

主な海釜の断面